

令和2年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同研究班」 研究報告書

令和3年4月30日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシア地域におけるメディア文化史の共同研究		
担当者	氏名	所属機関・職	
	安達 大輔	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・准教授	
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	平野 恵美子	神戸市外国語大学・客員研究員	19世紀末から20世紀初頭ロシア芸術文化研究
	研究テーマ		
	19世紀末から20世紀初頭ロシアにおける舞踊・美術・音楽を中心とした芸術文化研究		

研究成果の概要

本年度はコロナ禍の影響で計画の変更を余儀なくされた。まず、英国ヴィクトリア・アルバート博物館の世界的に著名なダンス・キュレーターである Jane Pritchard 氏を日本に招聘し、札幌・東京・関西等で講演会を行なう予定だったが、来日は叶わなかった。しかしながら最終的に3月にオンラインでの講演会を開催することが出来た。実際に来日した場合は違うテーマを予定していたが、英国は二度目のロックダウンに入り厳しい外出制限もあって、講演者の研究活動も縮小されたため、事前に班長の了承を得てテーマを変更した。講演タイトルは「アンナ・パヴロワ：皇室バレエから世界へ」で、3月4日18時より開催された。講演者とコメンテータの調整に時間がかかったが、慌ただしい準備に協力して下さった SRC スタッフの皆さんにはとても感謝している。直前の告知になったにも関わらず、国内外から50名近い参加者があった。コメンテータは、バレエ史上最も偉大な振付家であるマリウス・プティパの評伝でやはり世界的な評価を得た英国のダンス・ジャーナリスト、Nadine Meisner 氏が務めた。今回はバレエやアンナ・パヴロワという一般の関心が高いテーマだったので、言葉の壁を考慮し日英通訳をつけたことにより大勢の参加を促し、研究活動とその成果を世間に広く公開し還元するという貢献が出来た。Pritchard 氏は「瀕死の白鳥」のイメージが強いアンナ・パヴロワの、知られる様々な活動を幅広く紹介した。その一つ一つが活発な議論に発展し得るもので、世界中（英米露西蘭韓愛他）から参加した有名なバレエ研究者を交え、意見交換は終わりを見せる様子がなかった。個人的にはパヴロワの商業活動との関わり、特にヴァラエティー劇場での公演が興味深かった。当初の予定では21時に終了予定だったが、21時に通訳者を業務から解放し、その後も Pritchard 氏と英語で質疑を継続予定だったが、残念ながらネット接続の不具合で P 氏は退室してしまった。しかしその後も残った参加者で議論を1時間ほど続けた。この延長に関して後日、班長から疑問が呈されたが、SRC のスタッフを拘束したり、場所の使用時間に制限があったりするのでなければ、対面の講演会と違い、講演後にフリーに話す機会や懇親会の無い現在、オンラインで世界中の研究者が集ま

研究成果の概要（続き）

って交流できる貴重な場は、柔軟に活用すべきではないだろうか。

この他に3月10-14日にかけて、SRCと北海道大学の図書館で資料調査を行った。予定していた *Искусство и художественная промышленность* 紙にひと通り目を通すことが出来たのは幸いだった。時間が限られていたので、特に重要と思われる記事の複写だけで精一杯だったが、これから更に精読したい。同紙は、「移動派」の擁護者として知られる著名な批評家のV・スターソフを中心に発行されている。スターソフに厳しく批判されたディアギレフらが発行した *Мир искусства* 誌は、唯美派である「芸術世界」グループの芸術的指向を表すものとして広く知られている。だがスターソフと「移動派」の活動に関する同時代の文献資料として非常に重要であるにもかかわらず、*Искусство и художественная промышленность* 紙の価値はあまり認知されていないのではないかと。今回の調査で、スターソフを始めとする「移動派」側の論客による芸術批評等の他に、ハリコフ、トビリシ、シベリアの各都市など地方における「移動派」の活動について知ることができた。また「移動派」が主催した美術コンクールの概要もわかる。ほぼ同時期に発行され、同じ芸術家を扱っていることもあり、「芸術世界」グループの活動や思想との違いを比較する上でも、芸術の有用性を標榜した「移動派」の人々による、美術と産業関係に関する活動や考えを知る上でも有益な調査であり、今後も継続して行きたい。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

（単著）平野恵美子『帝室劇場とバレエ・リュス ミハイル・フォーキンからマリウス・プティパへ』未知谷，480頁，2020年7月。（第71回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞）謝辞無

（紀要論文）平野恵美子「バレエと文学 視覚化された無言の物語」*SLAVISTIKA*（東京大学），XXXV，389-403，2020. 謝辞無

（書評）平野恵美子「斎藤慶子著『〈バレエ大国〉日本の夜明け：チャイコフスキー記念東京バレエ学校 1960-1964』』『ロシア語ロシア文学研究』日本ロシア文学会，52，253-263，2020. 謝辞無

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。